



佐賀大学キャンパスマスタープラン 2010

Saga University Campus Master Plan

国立大学法人佐賀大学 環境施設部企画管理課

〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1番1号

TEL (0952)34-3327

FAX(0952)34-2009

E-mail : kikakkik@mail.admin.saga-u.ac.jp

html : <http://www.saga-u.ac.jp/>

国立大学法人佐賀大学

2011年3月



 目次

はじめに	p.1
佐賀大学キャンパスマスタープランの位置付け	p.2

基本的考え方

01. 佐賀大学憲章・中長期ビジョン	p.3
02. 佐賀大学キャンパス整備の基本方針	p.5

本庄キャンパス

03. 概要	p.7
04. 現状	p.9
05. 整備状況	p.11
06. ゾーニング計画	p.13
07. パブリックスペースの現状	p.15
08. パブリックスペース計画	p.17
09. 動線の現状	p.19
10. 動線計画	p.21
11. 駐車場の現状	p.23
12. 駐車場計画	p.25
13. 施設整備計画	p.27
14. エコキャンパス計画	p.29
15. インフラ計画	p.31
16. フレームワークプラン	p.35

鍋島キャンパス

17. 概要	p.37
18. 現状	p.39
19. 整備状況	p.41
20. ゾーニング計画	p.43
21. パブリックスペースの現状	p.45
22. パブリックスペース計画	p.47
23. 動線の現状	p.49
24. 動線計画	p.51
25. 駐車場の現状	p.53
26. 駐車場計画	p.55
27. 施設整備計画	p.57
28. エコキャンパス計画	p.59
29. インフラ計画	p.61
30. フレームワークプラン	p.65
あとがき	p.67

はじめに・佐賀大学キャンパスマスタープランの位置付け

はじめに

佐賀大学は昭和24年設立の旧佐賀大学と昭和53年設立の旧佐賀医科大学が平成15年10月に統合され出来た総合大学で、文化教育・経済・理工・農の4学部がある本庄キャンパスと医学部・附属病院がある鍋島キャンパスからなっている。

どちらのキャンパスも豊かな自然に囲まれた環境にあるが、建物は、築後25年を過ぎたものが佐賀大学全建物面積の80%を占めており、うち改修された建物は20%に留まっている。

現在、本学には老朽化した施設の改修・安全性確保、既存施設の高度化・多様化など教育研究環境の質的充実に向けた施設の計画的な整備、環境負荷の低減、地域との連携強化など取り組むべき様々な課題が山積している。

これらの課題に適切に対応しつつ良好なキャンパス環境の形成を図るためには、キャンパスマスタープランに基づき長期的視点に立った計画的な整備を行うことが重要である。

このたび佐賀大学キャンパスマスタープラン2010をとりまとめたのでここに提示する。

地域と共に未来に向けて発展し続ける大学の実現のために、関係各位の一言のご理解とご協力をお願いしたい。

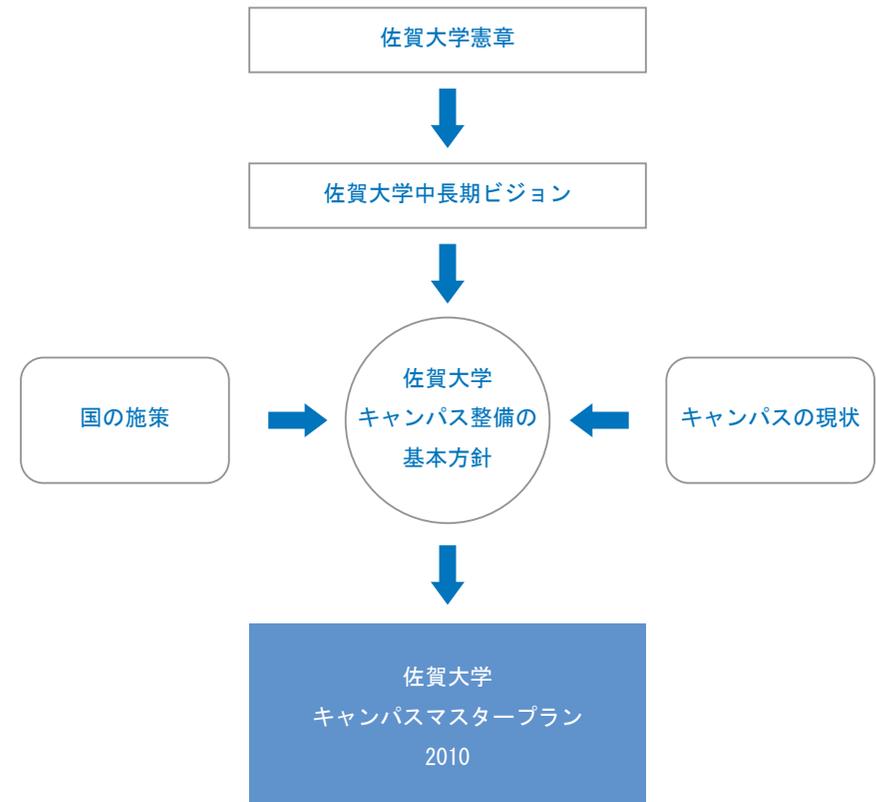
2011年3月

施設マネジメント委員会
委員長 中島 晃

佐賀大学キャンパスマスタープランの位置付け

「佐賀大学憲章」に基づく「佐賀大学中長期ビジョン」並びに、国の施策を踏まえ佐賀大学キャンパス整備の基本方針を定めた。

この基本方針に沿って、今後の施設整備の方向性を示す「佐賀大学キャンパスマスタープラン2010」を作成した。



01. 佐賀大学憲章・中長期ビジョン

佐賀大学憲章 平成 18 年 3 月 15 日制定

佐賀大学は、これまでに培った豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します

魅力ある大学

目的をもって活き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます

創造と継承

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます

教育先導大学

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします

研究の推進

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します

社会貢献

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます

国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します

検証と改善

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします

佐賀大学中長期ビジョン (2008－2015) - 佐賀大学が目指す 2015 年の大学像 -

佐賀大学は、活気に満ちた教育・研究活動、すなわち学生中心の大学にふさわしい洗練された教育の提供と地域・国際社会に開かれた特色ある研究・社会貢献活動を展開し、佐賀大学憲章において宣言した、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指すことにより、個性と特色を持った「佐賀の大学」として確固たる地位を確立する

このため、すべての構成員が英知を結集するとともに、その総合力を最大限に発揮できる大学づくりを目指す

教 育

I. 学生の成長と未来を支える教育

- ▶ 教養教育を人間形成の中心的な役割を担う教育の根幹と位置付け、すべての学生が豊かな教養を体系的に身につけることができる教育を提供する
- ▶ 教育課程ごとの目的に沿った専門教育の実質化を図る
- ▶ カリキュラム改革や語学教育の充実を通して教育の質を高める
- ▶ 入学前から就職後まで充実した教育支援プログラムを提供する

研 究

II. 「明日の社会」を創造する研究

- ▶ 長期的視点に立った基礎的・基盤的研究を着実に推進していくことにより学術研究水準の向上を図る
- ▶ 「健康・生活」「地域」「環境」「エネルギー」に関する研究を組織的な体制の下に重点的に展開し、国際的に高い研究水準を目指す

社会貢献

III. 地域・国際社会の発展を支える知的拠点として

- ▶ 教育研究の成果を積極的かつ効果的に社会に還元する
- ▶ 地域社会の期待に応える各種の取り組みを積極的に展開する
- ▶ 社会をリードするシンクタンクとしての役割を果たす
- ▶ アジアを中心に、教育研究水準を相互に高める効果的な国際交流を展開する

大学運営

IV. 魅力ある大学づくりに向けて

- ▶ 大学の総合力を最大限に発揮できるマネジメント体制を確立する
- ▶ 有為な人材の確保と教職員の能力開発に努めるとともに、卒業生、地域社会との有機的な連携を図る
- ▶ 教育・研究・診療活動を支える魅力あるキャンパス環境の計画的な整備に努める
- ▶ 中長期的な財政計画に基づく安定的な財政基盤を確立する
- ▶ すべての構成員が大学の目的と使命を自覚し、一体感をもって教育研究活動を展開していける教育研究運営体制を構築していく

02. 佐賀大学キャンパス整備の基本方針

- 1** 知の拠点にふさわしいキャンパス

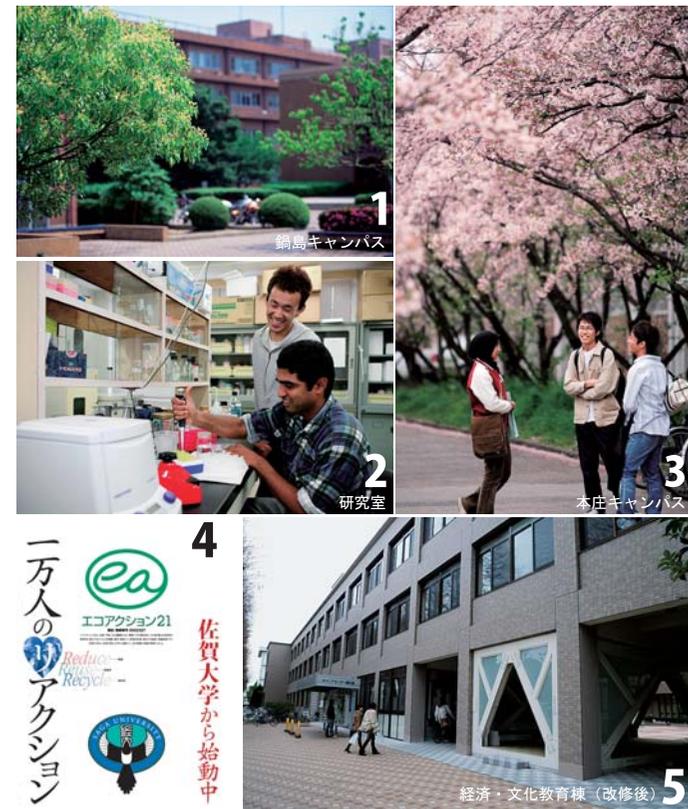
 - ▶ 地域、国際社会の発展を支える知的拠点にふさわしい環境を整備する
 - ▶ 生き生きとした教育・研究と患者中心の診療活動が展開できる教育研究環境を整備する
 - ▶ キャンパスの歴史と伝統を継承しながら発展的整備を進める
- 2** 快適な学習・研究活動ができるキャンパス

 - ▶ 特色ある教育研究活動を活性化するためのスペースを整備する
 - ▶ 快適な学習・研究活動ができる環境を整備する
- 3** コミュニティの形成されたキャンパス

 - ▶ 地域に開かれたキャンパス環境とし、地域との有機的連結を図る
 - ▶ ゆとりと潤いのある快適な屋外環境を形成する
- 4** 持続的発展が可能なキャンパス

 - ▶ エコアクション 21 に基づく環境に配慮した取り組み
 - ▶ 既存施設を良好に維持するため施設マネジメントを継続的に循環させる
- 5** 安全・安心なキャンパス

 - ▶ 老朽化により安全性・機能性に課題のある施設について、改善を進める
 - ▶ キャンパス内においては、歩車分離による動線を中心とした機能的な移動環境を整備する



03. 概要

本庄キャンパスの位置付け

本庄キャンパスは、JR佐賀駅の南約4Kmに位置し、旧佐賀大学の敷地・施設を継承して、文化教育学部・教育学研究科、経済学部・経済学研究科、理工学部・工

学系研究科、農学部・農学研究科、教養教育運営機構、附属図書館、全国共同研究施設である海洋エネルギー研究センター、学内共同研究施設、保健管理センターなどの

組織と関連施設が配置されている。敷地内施設の1日平均利用者は、学生約6,300人、教職員約1,040人の合計約7,300人以上におよぶ。



敷地概要

- ▶ 設置年度：昭和24年 ▶ 敷地面積：283,266㎡ ▶ 建築面積：47,151㎡ ▶ 延べ面積：120,690㎡
- ▶ 都市計画区域：都市計画区域内 市街化区域
- ▶ 防火地域：なし
- ▶ 用途地域：第一種中高層住居専用地域 第一種住居地域 準住居地域 (建ぺい率60% 容積率200%)
- ▶ 日影規制：5-3時間
- ▶ その他：公害防止地区(大気汚染, 騒音, 振動, 悪臭, 水質汚染, 土壌汚染)
- ▶ 地震地域係数：Ⅲ種
- ▶ 地盤種別：Ⅱ種
- ▶ 海岸からの距離：8Km以上

本庄キャンパス配置図



- | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 1. 教養教育1号館 | 16. 理工学部1号館 | 31. 保健管理センター | 46. 水理実験棟 |
| 2. 文化教育学部9号館 | 17. 農学部本館 | 32. 農学部2号館 | 47. 文化教育学部6号館 |
| 3. 教養教育大講義室 | 18. 農学部大講義室 | 33. 文化教育学部4号館 | 48. 図書館棟 |
| 4. 文化教育学部1号館 | 19. 農学部実験棟 | 34. 情報基盤センター | 49. 国際交流会館単身棟 |
| 5. 文化教育学部3号館 | 20. 職員宿舎 | 35. 経済学部4号館 | 50. 国際交流会館家族棟 |
| 6. 文化教育学部7号館 | 21. 理工学部5号館 | 36. 楠葉寮北棟 | 51. 理工学部7号館 |
| 7. 文化教育学部8号館 | 22. 教養教育・文化教育棟 | 37. 楠葉寮南棟 | 52. 産学連携推進機構 |
| 8. 経済・文化教育棟 | 23. 文化教育学部5号館 | 38. 文系サークル会館 | 53. 理工学部6号館 |
| 9. 体育館 | 24. 夢の実会館 | 39. 体育系サークル会館 | 54. 農学部4号館 |
| 10. スポーツセンター | 25. R1実験室 | 40. 経済学部3号館 | 55. 理工学部8号館 |
| 11. 機械システム実習工場 | 26. 経済学部2号館 | 41. 理工学部4号館 | 56. 特高受変電棟 |
| 12. 機械システム実験棟A | 27. 機械システム実験棟B | 42. 理工学部理系大学院棟 | 57. 理工学部9号館 |
| 13. 環境構造材料学実験棟 | 28. かさざぎホール | 43. 大会館 | 58. 学長補佐室 |
| 14. 理工学部3号館 | 29. 理工学部大学院棟 | 44. 農学部3号館 | 59. 全学共通多目的実験棟 |
| 15. 理工学部2号館 | 30. 本部棟 | 45. 大型構造物実験棟 | 60. 菊楠シュライバー館 |
| | | | 61. 多目的トレーニング棟 |

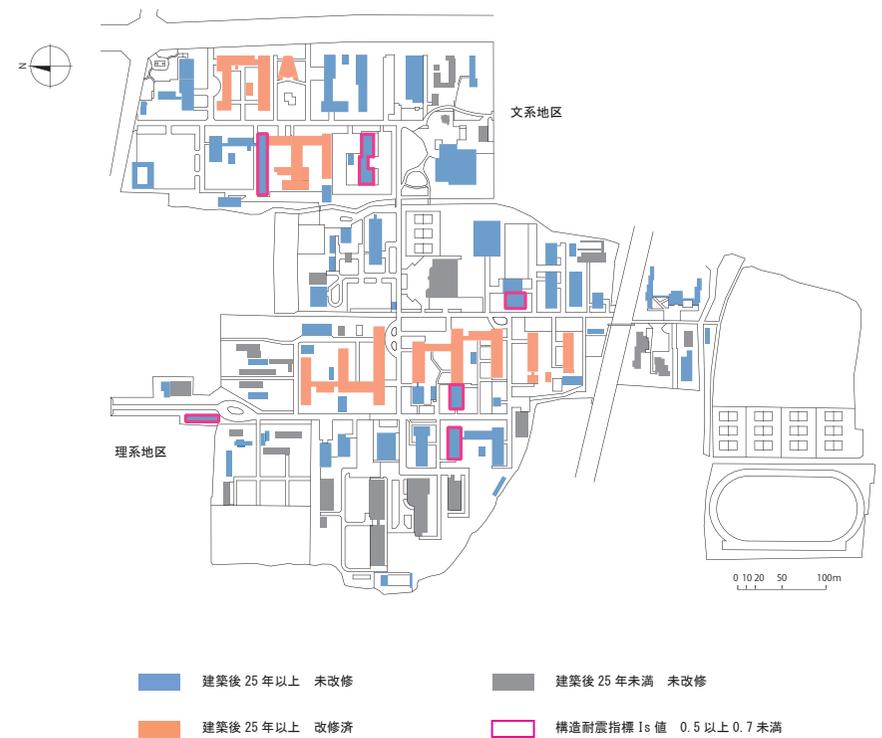
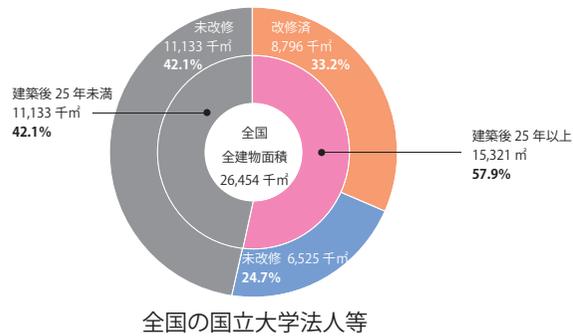
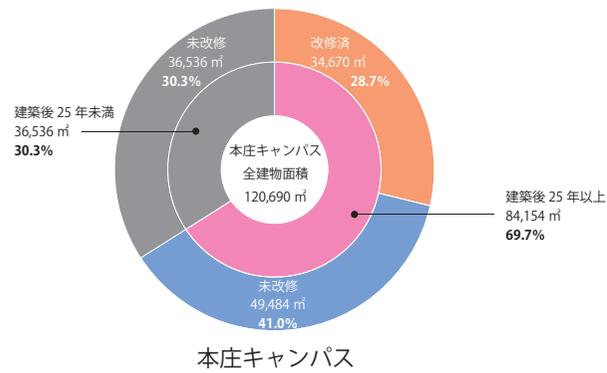
04. 現状

本庄キャンパスの全建物面積は、120,690㎡あり、建築後25年を過ぎた老朽建物が全体の約70%を占めている。

しかしながら、ここ数年での老朽再生整備において機能改善と耐震性の確保が進んだが、全体の約40%が未改修であり、全国の国立大学法人等の改修率と比較しても整備が遅れていることが見てとれる。

建物の耐震性については、この数年で改善が進み安全性が確保された。

施設整備の状況 平成22年5月1日現在



05. 整備状況

第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画期間（2006～2010年度）において、老朽施設の再生、既存施設の耐震化が進展した。

この期間に改修整備した面積は、約24,000㎡となる。今後も引き続き施設の老朽再生整備を進め、安全性を確保していく。



5か年計画期間に改修整備した施設



A: 理系学部校舎群を市道側から眺める
改修により外壁の色彩が統一に整備された

B: 文系学部校舎群を県道側から眺める
改修により外壁の色彩が統一に整備された

C: 文化教育学部9号館

D: 理工学部1号館

E: 経済・文化教育棟

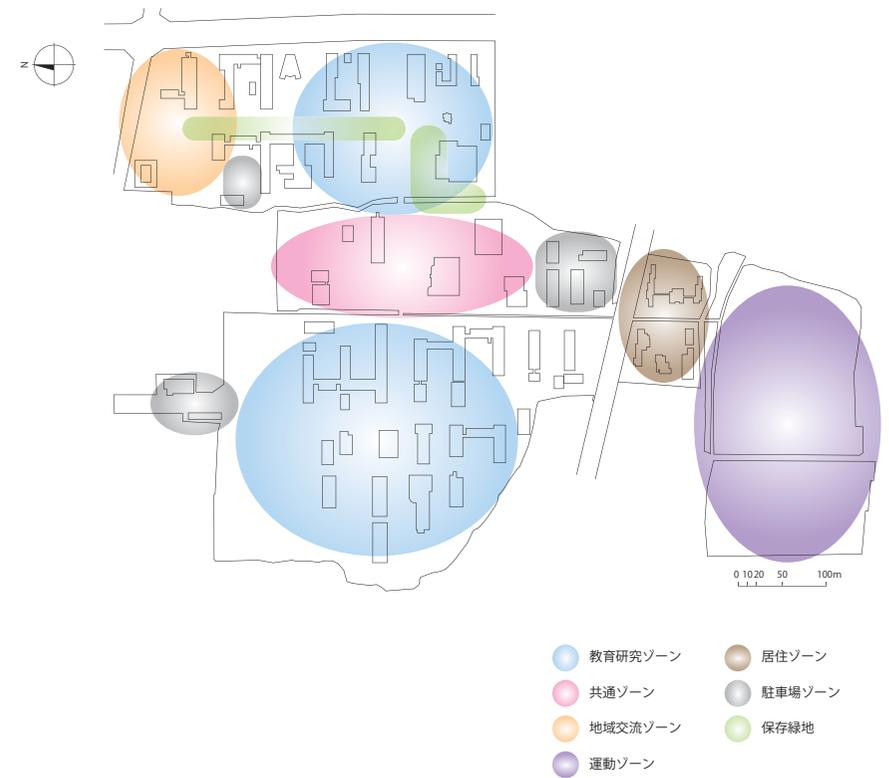
F: 農学部本館内のリフレッシュスペース

06. ゾーニング計画

整備の基本方針をふまえた上で、将来的なゾーニングの設定をした。キャンパス内の各所からの利便性を考慮し、キャンパスの中央部を共通ゾーンとして、共通的な施

設やパブリックスペースを配置する。地域に開かれたキャンパスとするため、最も人の出入りの多い正門付近を地域交流ゾーンに設定する。駐車場ゾーンは出入口周辺

に設定し、構内乗り入れを制限する。敷地南側に居住ゾーンと運動ゾーンを配置する。教育研究ゾーンは現状のゾーン配置を継承する。

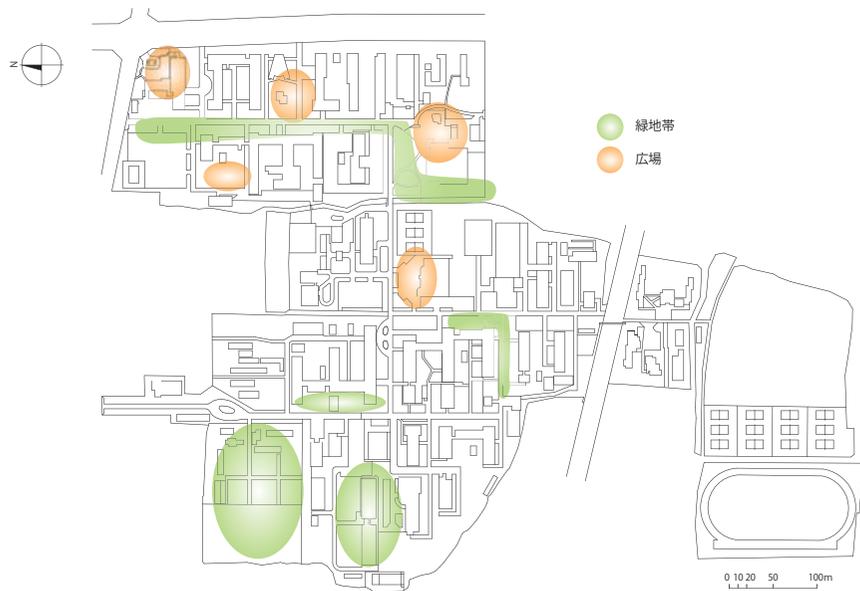


07. パブリックスペースの現状

キャンパス内は、らくうしょうの並木や理工学部の桜並木等生育した緑が多い。
 大学会館周辺は、まとまったスペースの広場が確保されており、

賑わいの場を形成している。
 理工学部6号館前、附属図書館前および大講義棟前にも一部ベンチ等が配置され、広場が確保されているが、キャンパス全体でみる

とパブリックスペースは十分ではない。また、キャンパス内の案内板は、仕様やデザインが統一されたものとなっていない。



A : 大学を象徴する通りとなっている正門から南へ延びるメインストリート
 B : 憩いと賑わいの場となっている大学会館前の広場



C・D : デザインが統一されていない案内板
 E : キャンパス内でも有数の緑地を形成している大学会館前

08. パブリックスペース計画

それぞれの外部空間の特性、ニーズおよび内部空間との関係性等をふまえ特色ある整備を行う。

らくうしょう並木、桜並木は大学の歴史を継承する空間として保存活用する。

正門周辺は、交流や賑わいを誘発する場となる地域交流拠点として整備す

る。キャンパス中央部分および、かささぎホール周辺を、憩いの場として整備する。キャンパス中央部分は隣接する大学会館周辺の広場と一体的に計画する。

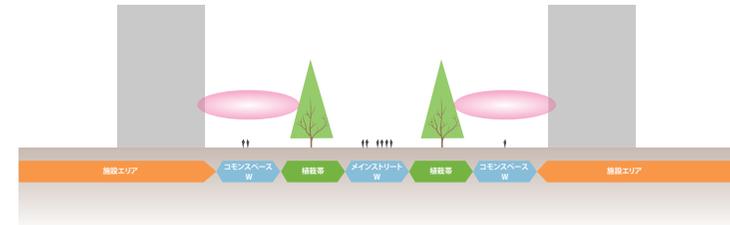
多様な利用者に対し、ユニバーサルデザインに基づく安全で親しみやすい環境を提供する。

サイン、外灯、ベンチおよびゴミ箱等のデザインの統一性をもたせ、既存のモニュメントを効果的に活用し、調和のとれた屋外環境を整備する。



イメージ

グリーンコミュニティキャンパスとして、緑豊かな屋外環境を整備

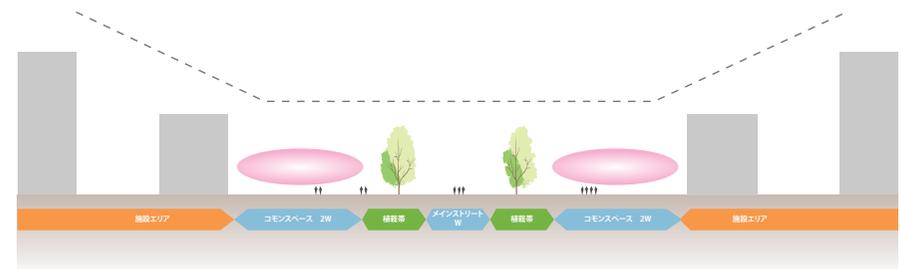


A-A 断面：南北に延びるメインストリート

現状は、らくうしょうの並木と建物が近接して圧迫感があると共に、建物の屋根にらくうしょうの落葉が溜まりやすくメンテナンス上課題がある。

整備後は現状の車道が歩道となる。メインストリート沿いの施設を高層化し、植栽帯と施設の間を commonspace とし、ゆとりのあるメインストリート空間を形成する。

Commonspace の幅はメインストリートと同程度を確保する。
らくうしょう並木は将来にわたって保全する。



B-B 断面：東西に延びるメインストリート

現状は、かささぎホール前で軸がずれており、歩道幅に統一性がない。歩道のない区間もある。
整備後は軸を通し、現状の車道が歩道と

なる。歩道の脇に植栽帯を整備し、植栽と施設の間を commonspace とすることにより、ゆとりのあるメインストリート空間を形成する。

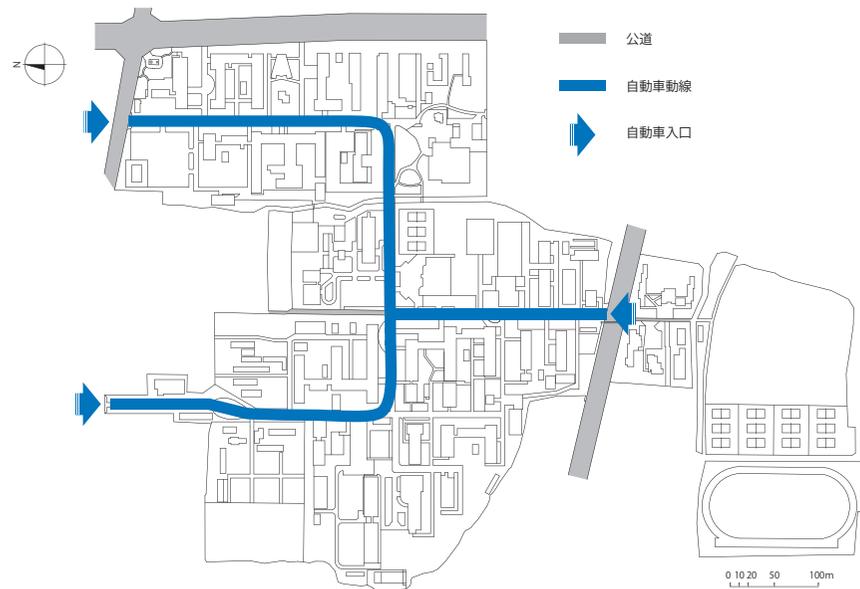
メインストリート沿いの施設は低層化し、圧迫感を抑える。メインストリートに面さない施設は高層集約化する。Commonspace の幅はメインストリートの2倍程度を確保する。

09. 動線の現状

歩道は概ね整備されているが、キャンパス内は歩行者、自転車、車が混在しており、安全な環境とはいえない。特に自転車の利用者が多く、講義と講義の間の移動

時には、自転車を使用する学生であふれており、安全性に問題がある。

キャンパスは国道により南北に、市道により東西に分断されている。

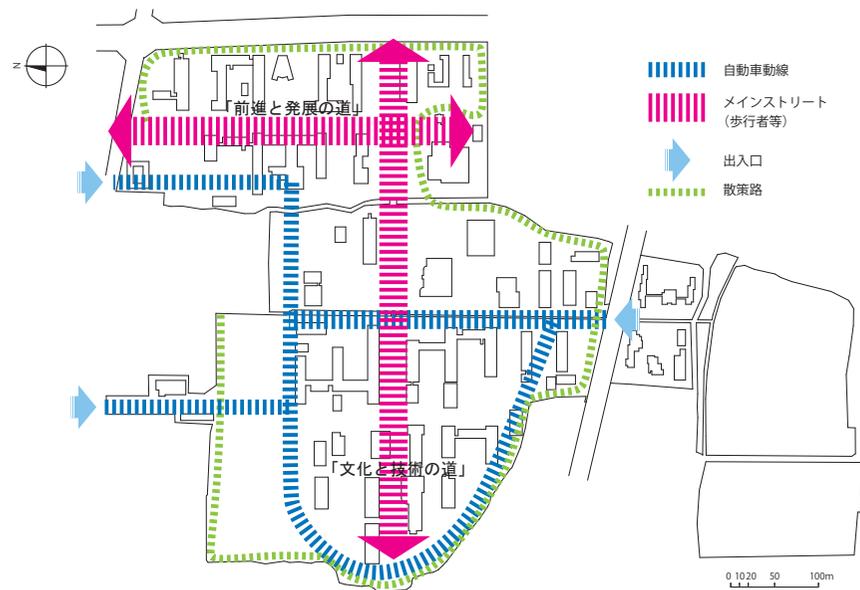


A: 車、自転車および人で混雑する構内道路
 B: キャンパスを南北に分断する国道 208 号線
 C: キャンパスを東西に分断する市道

10. 動線計画

安全、安心して快適な移動空間づくりを目標とする。キャンパスの東西方向ならびに正門から南方への道路をメインストリートとして位置付ける。

メインストリートからは、車を排除し、人と車の動線の分離を図ると共に、自動車動線をキャンパスの外周部に計画する。



南北に延びるメインストリート

新緑の頃には緑が美しいらうしょうが茂る南北軸の南の先には有明海があり、古代より浮泥の自然沈下堆積と干拓により陸化が進んできた。この歴史性を踏まえ「前進と発展の道」として軸線を性格付ける。

東西に延びるメインストリート

佐賀市内を横断する長崎街道は、鎖国時代の長崎出島を通じた西洋文化と技術の通り道であった。この歴史性を踏まえ東西軸を「文化と技術の道」として性格付ける。



A: 正門から南へ延びるメインストリート舗装整備後
 B: 地域に開かれたキャンパスとして、大学関係者をはじめ市民が利用できる散策路

11. 駐車場の現状

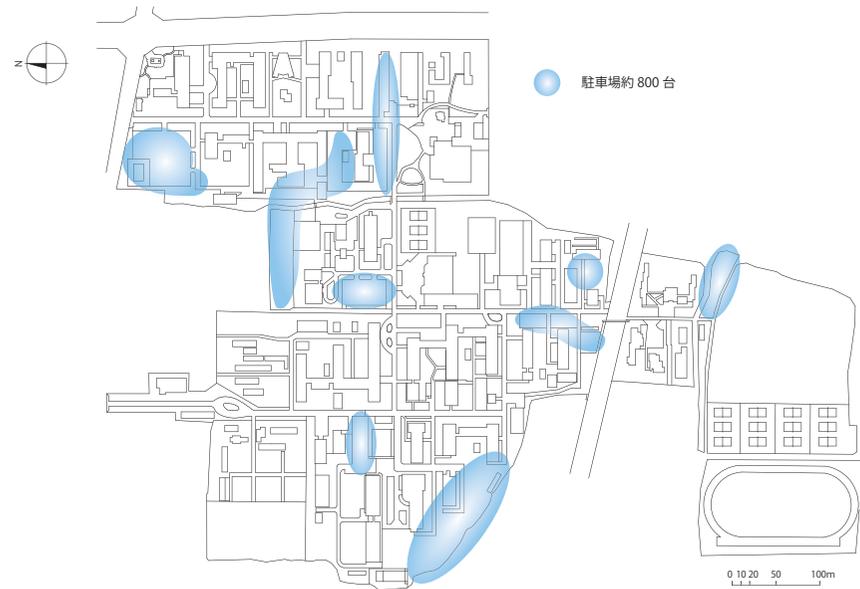
駐車場は、収容台数10台程度から100台程度まで大小さまざまである。

キャンパスへのアクセスは、公共交通手段がバスのみで便数も少

ないことから外来者、大学関係者ともに車の利用が多い。車両に対しては、課金により進入車両の低減に努めている。

駐車場はキャンパス内に散在し

ているため、構内交通の混在の原因となっている。また、市内域は平坦地であるため自転車の利用者が非常に多く、駐輪場の確保も課題となっている。



A: キャンパス西端にある理工学部地区駐車場

B: 駐輪場に駐められず歩道にあふれた自転車

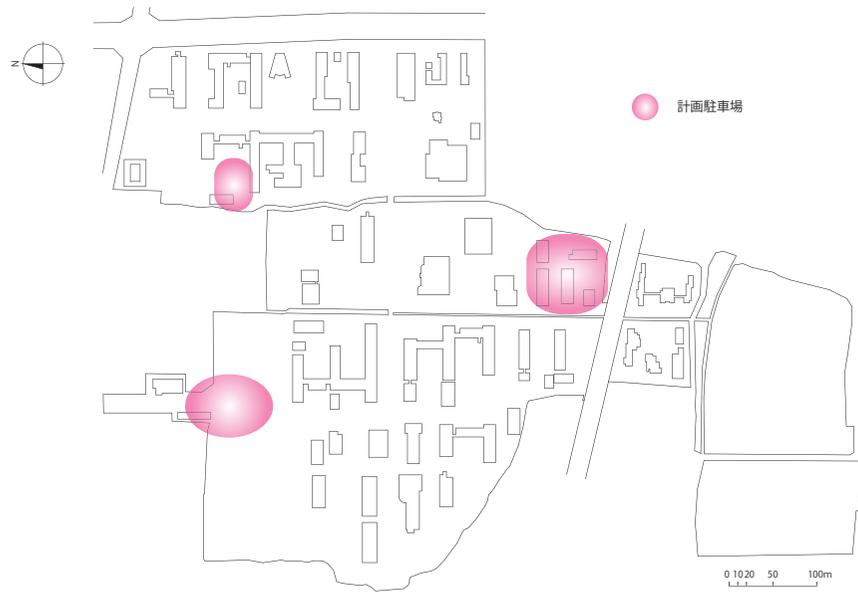
C: 構内を移動する自転車利用者

12. 駐車場計画

駐車場計画にあたっては、公共交通機関の利用を促進し、入構車両の制限を図る。
分散している駐車場を出入口周

辺に集約し、キャンパス内への車の乗り入れの制限を図る。車両の増加状況によっては立体化も検討する。

駐輪場は、建物整備にあわせ建物周辺に確保して利便性の向上を図ると共に景観へ配慮した整備を行う。



A : 立体駐車場 (九州大学)

B・C : 駐輪場

13. 施設整備計画

大半の施設は経過年数25年以上の老朽建物である。これらは大規模改修の時期を迎えており、緊急性、耐震性や老朽度を勘案し順次機能改善を図る必要がある。さらに改修整備を終え、概ね30

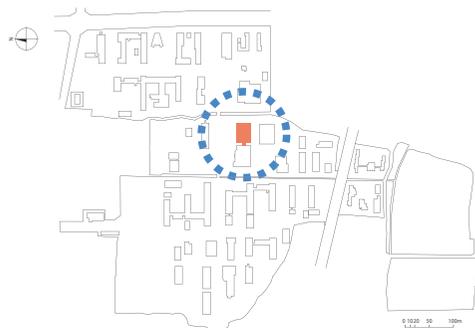
年後には寿命をむかえることとなる。したがって、スクラップ・アンド・ビルド方式で施設整備を展開していく計画とする。

1ステージで情報基盤センターや図書館等の情報関連施設を整備

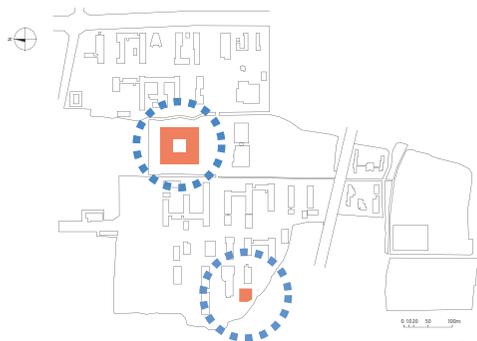
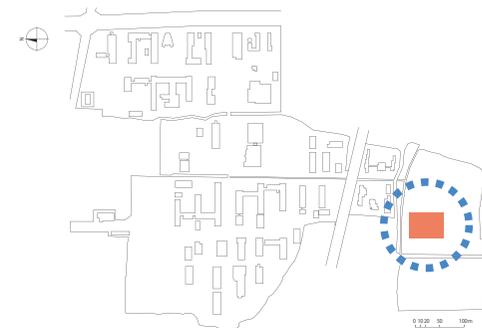
する。2ステージで体育施設の集約を図る。その後も順次整備を進めていく。

なお新築整備にあたっては、現状の保有面積を維持しながら、高層集約化を図る。

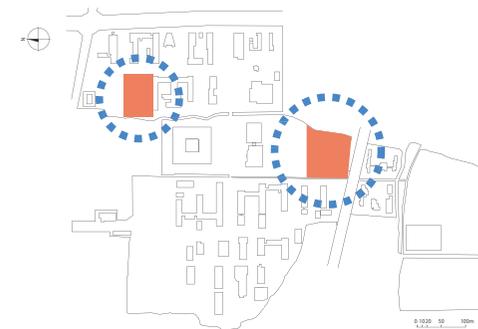
1 ステージ 情報関連施設の集積



2 ステージ 体育施設の集約



3 ステージ 講義棟建設、工場・実習棟を集約建設



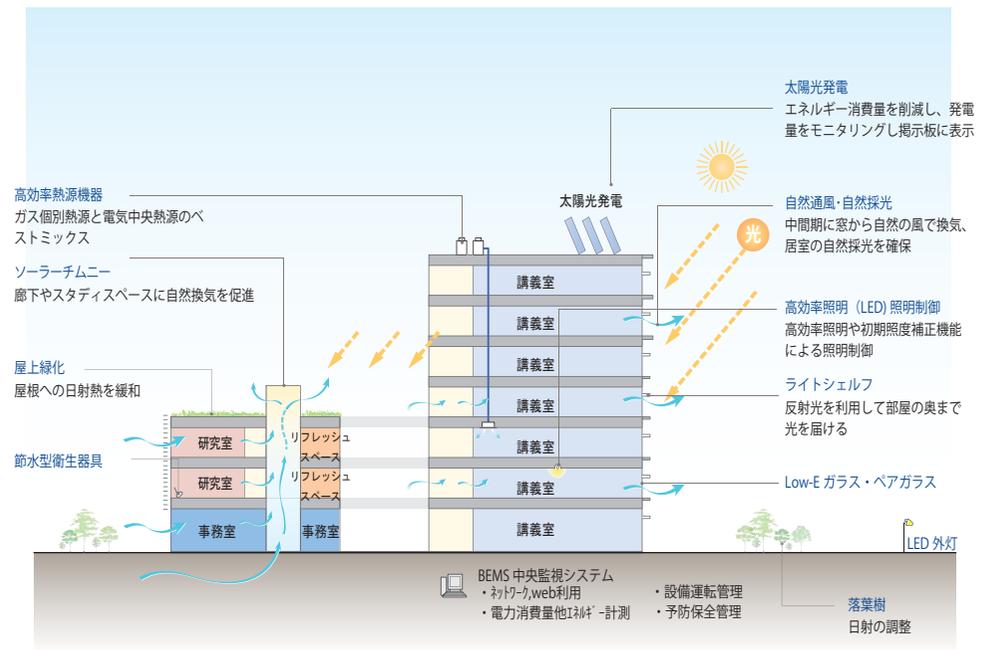
4 ステージ 駐車場整備

14. エコキャンパス計画

太陽光発電設備等の自然エネルギーの活用や、LED照明の採用等により、地球環境に配慮し自然環境への負荷の軽減を推進し、人と自然

と環境の共生を図る。
 全学をあげて取り組んでいるエコアクション21をより活性化するための環境に配慮したキャンパスづく

りと、環境マネジメントの一層の推進を図る。



15. インフラ計画

現在、本庄キャンパスは建築後25年以上の建物が70%あり、建物のみならず電気・水道・ガス

等のライフライン老朽化が著しい。今後は教育・研究の円滑な遂行を支えるための基盤として、安全

性及効率性、地球環境に配慮したインフラ計画を行っていく。

1. 周辺環境、地球環境に配慮したインフラ計画

地球温暖化防止のためCO₂等の温室効果ガス排出量の抑制を図った環境に優しい計画とする。

3. 保守管理の省力化を配慮した設備計画

増大する空調用需要電力に対し、ランニングコストの低減を図る空調システムの導入を計画する。

2. 設備機能の信頼性の向上を配慮したインフラ計画

設備機能の支障は教育研究に重大な影響を及ぼすため、設備機能の低下あるいは停止等が発生しない信頼性、安全性の高いシステムを構築する。

4. 省エネルギー計画

高効率型機器の採用、熱負荷の低減、エネルギーの有効利用、搬送動力の低減、自然エネルギーの利用等を考慮した計画とする。

電力設備	現 状	計 画
引込み	特別高圧埋設管路引込み	変更なし
回線数	常用、予備22kVで2系統電力引込み	変更なし
変電設備容量	4,000kVA×2(特高受電室)	変圧器の高効率型への更新
デマンド電力	3,000kW	変更なし
契約種別	特定規模電気事業者と契約	変更なし
構内配線敷設	管路埋設及び架空配線方式	すべてを管路埋設方式に改修
停電対策	予備線自動切り替えによる対応	変更なし
省エネルギー	高効率型変圧器及び省エネ照明機器の採用	高効率型変圧器及び省エネ照明機器の採用、センサスイッチ採用による照明設備の自動点滅化

情報通信設備	現 状	計 画
電話設備	電話交換機は平成8年度にデジタル電子交換機に更新	音声、データ、画像総合インフラに対応できる電話交換設備へ更新 IP化への対応、キャンパス間の一元化
情報設備	平成6年度に全学学内LAN(FDDI)構築 平成13年度にギガビットネットワーク構築	改修に伴い情報通信網(光ケーブル)の充実を図る
防災電気設備	R型受信機(旧) 平成3年度設置 R型受信機(新) 平成17年度設置 各建物の感知器等はP型設備	P型からR型受信機に順次移行し、それに伴って各建物の中継器を更新
集中検針設備	農学部本館 平成17・18年度設置 理工学部1号館 平成18年度設置 計測内容は、電力、水道、ガス等で学内LANに接続することで学内のあらゆる場所で計測可能	各建物ごとの光熱量を計測可能にし、エネルギー管理及び省エネルギーに貢献する ビル管理システム「BEMS」の導入による個室のエネルギー管理

空調設備	現 状	計 画
空調方式	学部会議、講義室、教員室及び学部事務室等にセパレート形の個別空調機を設置	使用時間が一定していない研究室等は省エネルギー運転と個別運転可能なビルマルチ方式 また、使用時間が一定している講義室にはガス式による空調方式を採用

熱源設備	現 状	計 画
ボイラ	ボイラは全て廃止した	変更なし
冷凍機	附属図書館に空気熱源式スクルーヒートポンプチラーを設置 冷355kw・暖375kw	大学会館は高効率ヒートポンプチラーへの更新

都市ガス設備	現 状	計 画
使用先	学内全域 (実験・空調・生活用 年277,000m3/年)	変更なし
配管	構内引込管の老朽化に伴い幹線配管の更新はほぼ完了	ガスメーター以降の老朽化した配管の更新を建物改修に合わせて行う

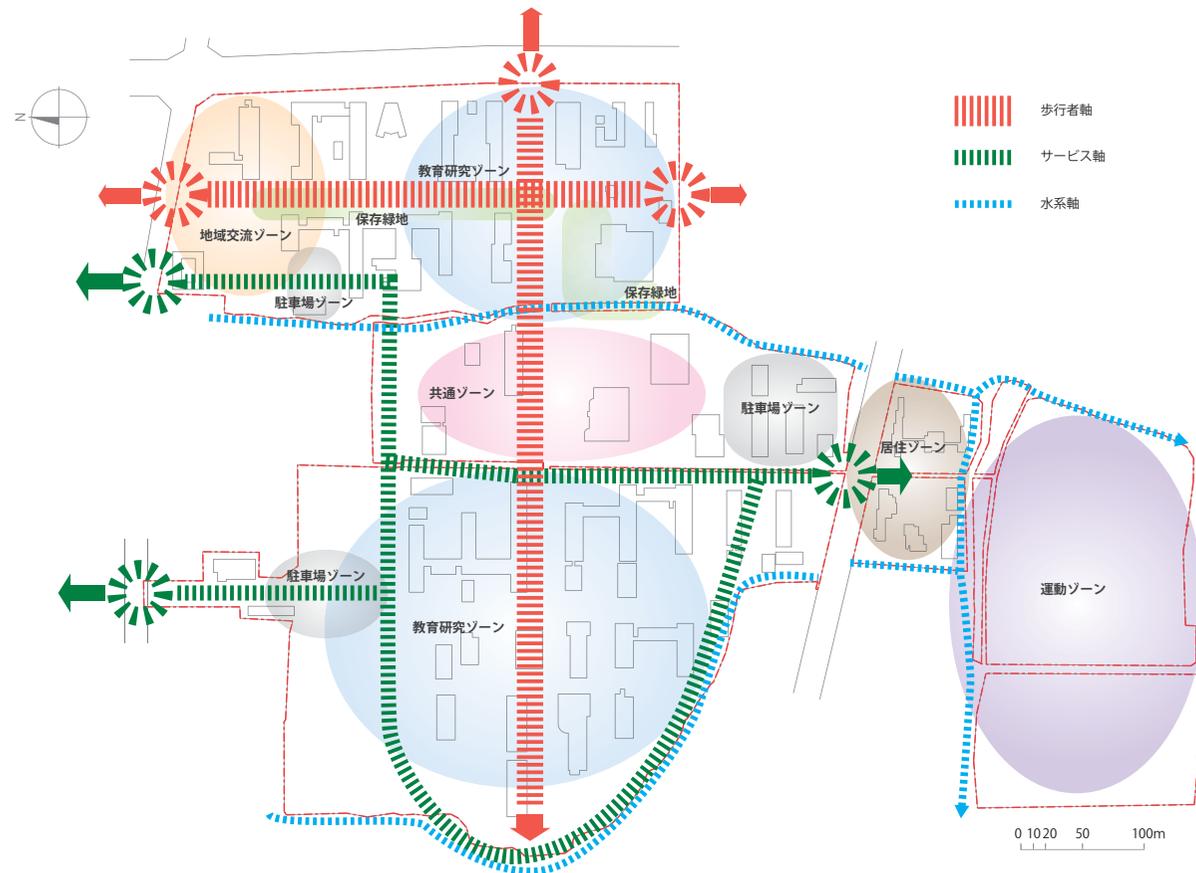
給水設備	現 状	計 画
水源	市水(52,000m3/年)	変更なし
給水方式	受水槽と高置水槽の組合せ(重力方式)及び低層建物は水道直結式	高置水槽を撤去し、受水槽からの定圧給水方式とする。また、低層建物へは水道直結方式とする
配管	構内引込管の老朽化	構内基幹配管の更新

排水設備	現 状	計 画
一般排水	公共下水道へ放流	方式は現状と変更はないが配管等は更新 実験排水は必ず処理装置かモニター槽を経由し放流 川東地区の汚水排水系路は一経路に集約
汚水排水	公共下水道へ放流	
雨水排水	公共用水路へ放流	
実験排水	排水処理装置を経由し、公共下水道へ放流 一部直接公共下水道へ放流	

16. フレームワークプラン

フレームワークプランは、佐賀大学のアカデミックプランを実現するため、キャンパスの将来像を土地利用計画と動線計画により、おおよそ50年先のキャンパスの

骨格をイメージする未来図である。このフレームワークプランが今後のキャンパス整備にあたっての基本的な拠りどころとなる。



17. 概要

鍋島キャンパスの位置付け

鍋島キャンパスはJR佐賀駅の北西約4Kmに位置し、旧佐賀医科大学の敷地・施設を継承して、医学部・医学系研究科、医学部附属病院、医学部附属地域医療科学教育研究センター、医学部附属先

端医学研究推進支援センター、附属図書館医学分館、総合分析センター（鍋島地区）、総合情報基盤センター医学サブセンター、保健管理センター鍋島分室などの組織と関連施設が配置されている。

敷地内施設の1日平均利用者は、学生約1,000人、教職員約900人、附属病院利用者約1,250人等を含め3,000人以上におよぶ。また、地域の緊急災害時対応施設としても指定されている。

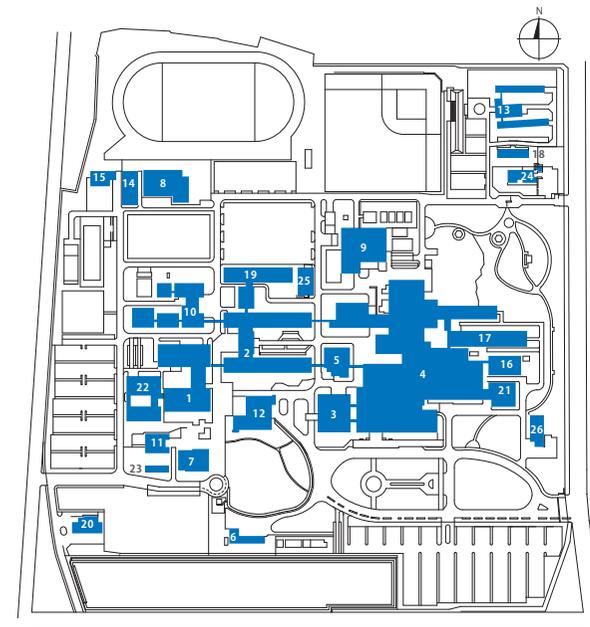
平成22年8月撮影



敷地概要

- ▶ 設置年度：昭和51年 ▶ 敷地面積：235,424㎡ ▶ 建築面積：32,800㎡ ▶ 延べ面積：95,445㎡
- ▶ 都市計画区域：都市計画区域内 市街化区域
- ▶ 防火地域：なし
- ▶ 用途地域：第一種中高層住居専用地域（建ぺい率60% 容積率200%）
- ▶ 日影規制：4-2.5時間
- ▶ その他：公害防止地区（大気汚染、騒音、振動、悪臭、水質汚染、土壌汚染）
- ▶ 地震地域係数：Ⅲ種
- ▶ 地盤種別：Ⅱ種
- ▶ 海岸からの距離：8Km以上

鍋島キャンパス配置図



- | | | |
|--------------|---------------|----------------|
| 1. 講義棟・基礎実習棟 | 10. 動物・RI実験施設 | 19. 院生・臨床研究棟 |
| 2. 基礎・臨床研究棟 | 11. 医学部会館 | 20. 非常勤講師宿泊施設 |
| 3. 管理棟 | 12. 附属図書館医学分館 | 21. MRI-CT装置棟 |
| 4. 附属病院 | 13. 看護師宿舎 | 22. 看護学科棟 |
| 5. 臨床講堂 | 14. 格技体育館 | 23. 学生サークル棟 |
| 6. 車庫 | 15. 課外活動施設 | 24. 保育所 |
| 7. 医学部会館（食堂） | 16. 高エネルギー治療棟 | 25. 卒後臨床研修センター |
| 8. 体育館 | 17. RI治療棟 | 26. 地域医療支援センター |
| 9. 中央機械室 | 18. 医学部宿舎 | |

18. 現状

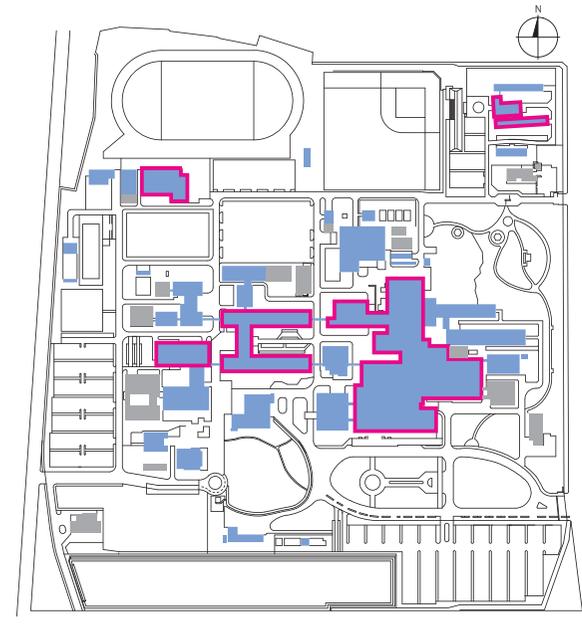
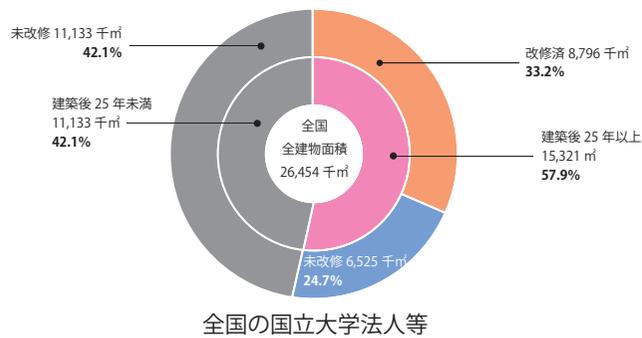
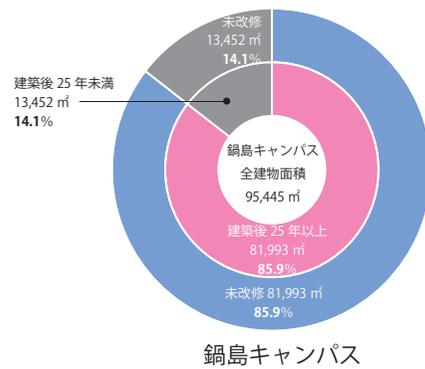
鍋島キャンパスは昭和 50 年代に新たに整備されたキャンパスである。

全建物面積は 95,445 m²あり、そのうち建築後 25 年を過ぎた老朽建物が約 86%を占めている。

全てが未改修の建物であり、全国の国立大学法人等の改修率と比較しても整備が遅れていることが見てとれる。

附属病院再整備により 40,000 m²程が改善される予定であるが、附属病院以外の施設についても計画的な耐震改修を含めた機能改善が必要である。

施設整備の状況 平成 22 年 5 月 1 日現在

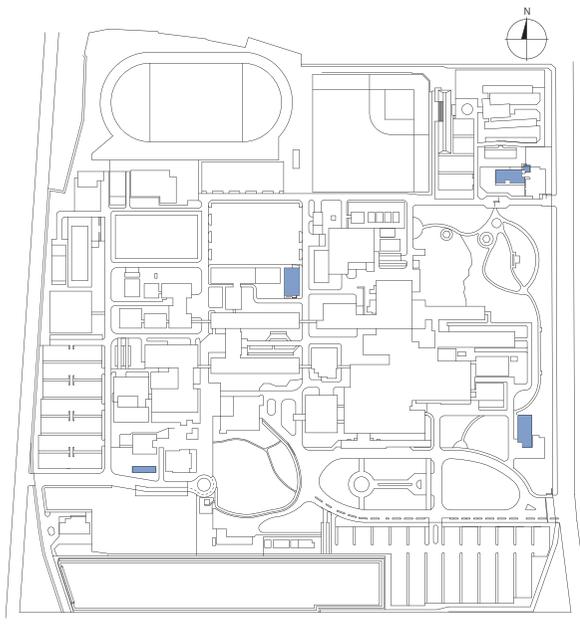


■ 建築後 25 年以上 未改修 ■ 建築後 25 年未満 未改修
 □ 構造耐震指標 1s 値 0.4 以上 0.7 未満

19. 整備状況

鍋島キャンパスは昭和50年代から整備が始まり、現在まで改修が行われていない。
第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画期間(2006～2010年度)

においても、卒後臨床研修センター、地域医療支援センター等、新築の建物を中心に整備が進んだ。



5か年計画期間に整備した施設



A: 研修医が研修を行うための卒後臨床研修センター
B: 研修医交流のためのリフレッシュスペース

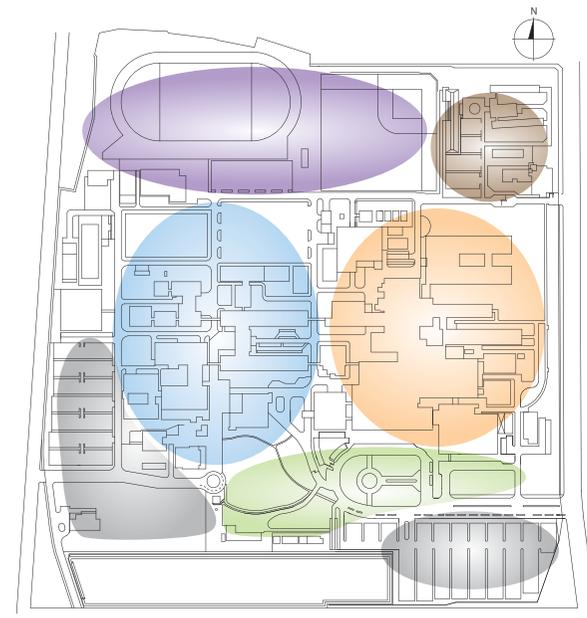
C: 女性医師・看護師の働く環境整備のために設置された認可保育所
D: 佐賀県の地域医療再生計画の一環として整備された地域医療支援センター

20. ゾーニング計画

現在のゾーニングはキャンパス東側の附属病院ゾーンと西側の教育研究ゾーンを中心に、北側には運動施設・緊急時対応ゾーン及び

居住ゾーンを配置し出入口周辺に駐車場ゾーンを設けている。ゾーニング計画については進行中の附属病院再整備計画や医学部

地区アカデミックゾーン改修計画等においても現在のゾーニングで十分に機能が発揮できるゾーニングであるため、現状を継承する。

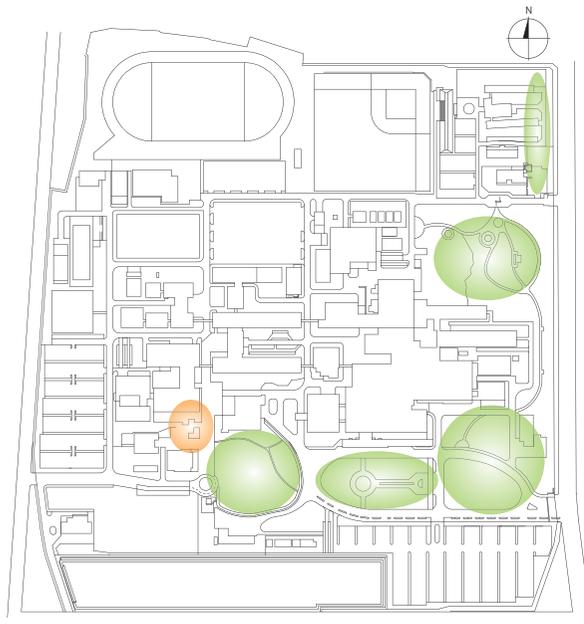


- 教育研究ゾーン
- 居住ゾーン
- 附属病院ゾーン
- 駐車場ゾーン
- 運動施設・緊急時対応ゾーン
- 緑地ゾーン

21. パブリックスペースの現状

キャンパス内のパブリックスペースは、リハビリコースを兼ねた遊歩道、築山庭園、附属病院正面玄関前など緑地が多く、剪定等管理も行き届いている。

また、医学部会館前の広場はベンチ等のファニチャーも適宜配置されており、学生の交流・憩いの場として賑わいのある空間となっている。



A: 交流・憩いの空間として利用できる築山庭園
B: 人々に潤いを与えている市道に面した桜並木
C: 憩いと賑わいの場となっている医学部会館前の広場

D: 緑が多い患者用リハビリコースを兼ねた遊歩道
E: 高木や低木が適宜配置された附属病院正面玄関前の緑地帯

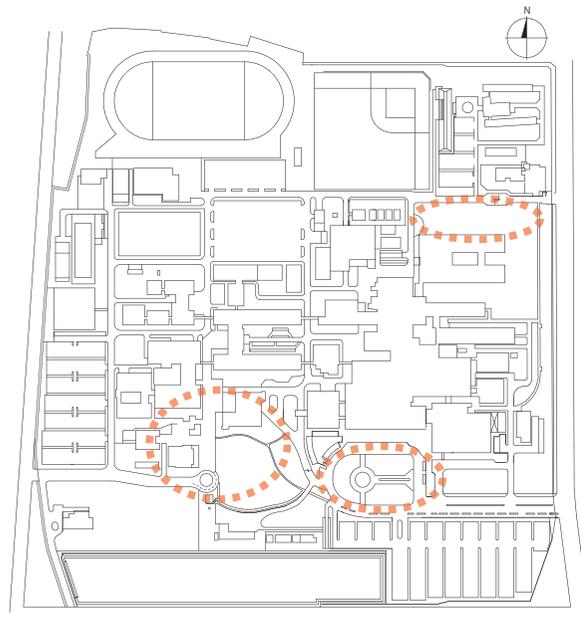
22. パブリックスペース計画

現状のパブリックスペースを継承し、維持保全する。

多様な利用者に対し、ユニバーサルデザインに基づく安全で親しみやすい環境を提供する。また、

統一性のとれたサイン・外灯等を整備するとともに、ベンチやゴミ箱等のデザインの統一性を持たせ、調和のとれたキャンパスを演出する。

既存のモニュメントや記念樹等歴史的資源を効果的に活用し、調和のとれた屋外環境を演出する。



 パブリックスペース



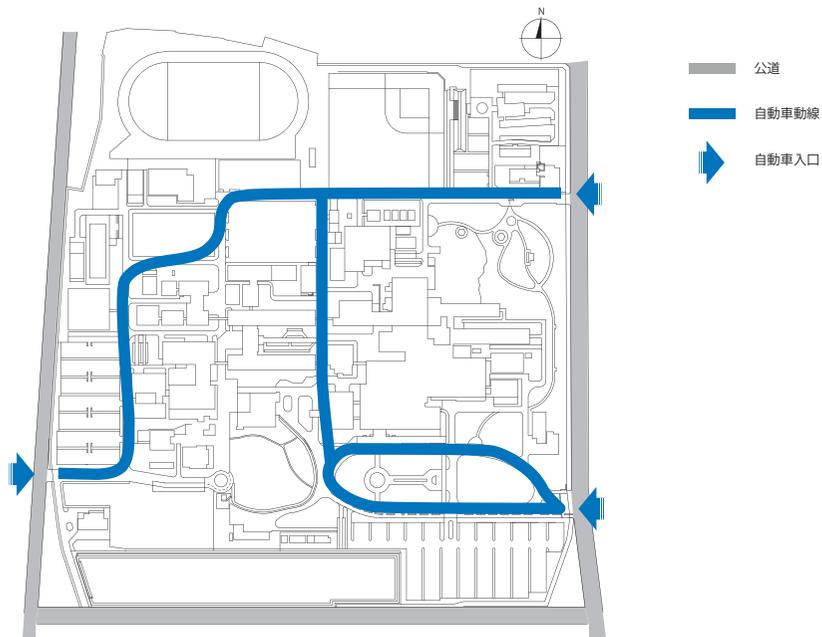
A・B：より緑豊かなキャンパス・附属病院の屋外環境を整備する
C：緑の中の遊歩道

23. 動線の現状

キャンパス内の道路は、病院玄関前のループ道路と、東門と西門を結ぶ道路とに大別できる。病院玄関前のループ道路は、主

として外来者やバス等の出入り口になっており、バス利用者・外来駐車場利用者の動線がこれを横断する形で一般車両動線と交差して

いる。東門と西門を結ぶ道路は、教職員やサービス業者の動線となっている。



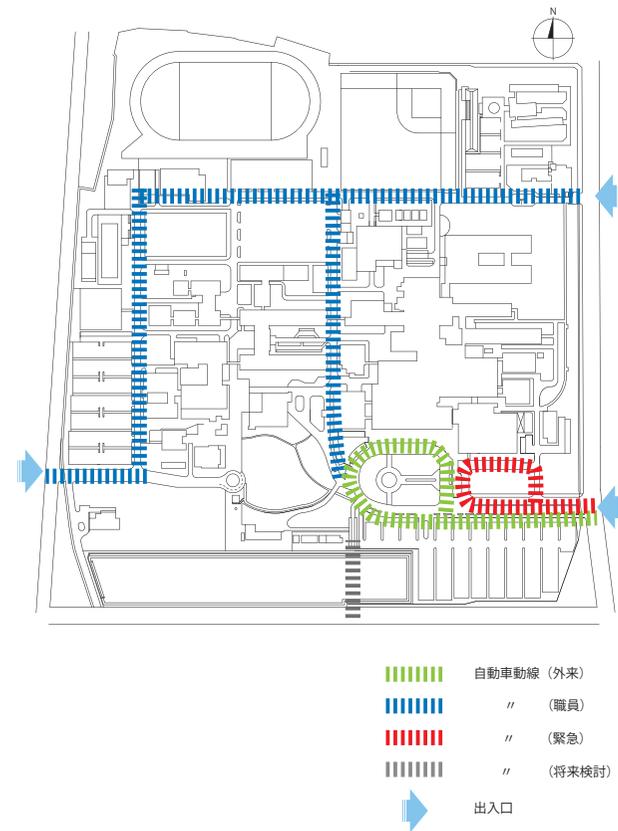
A : 外来駐車場出入口
 B : 利用者の利便性を図るため構内に設置されたバス停
 C : 附属病院正面玄関前ループ道路

24. 動線計画

キャンパス内は学生・教職員、附属病院の患者等、様々な人や車両等の動きが生じるため、安全性・利便性に配慮した計画とする。

基本的には現状の動線を継承することとするが、病院玄関前の道路は救急車両動線を分離するために改良する。

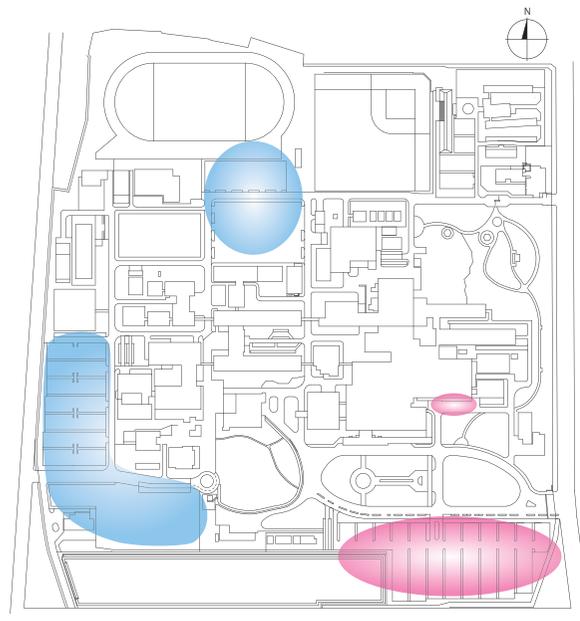
南側からのアクセスについては、今後の整備状況を踏まえ、将来的検討課題とする。



25. 駐車場の現状

キャンパスへのアクセスは、公共交通手段がバスのみで便数も少ないことから外来者、大学関係者ともに車の利用が多い。

駐車場はキャンパスの周辺に分散配置されており、駐車台数は概ね充足している。



A : 外来患者の集中する時間帯に混雑する外来者専用駐車場

C : 学生・教職員専用として利用している西側駐車場

B : 学生・教職員専用として利用している北側駐車場

D : 講義棟入り口に駐められた大量の自転車

26. 駐車場計画

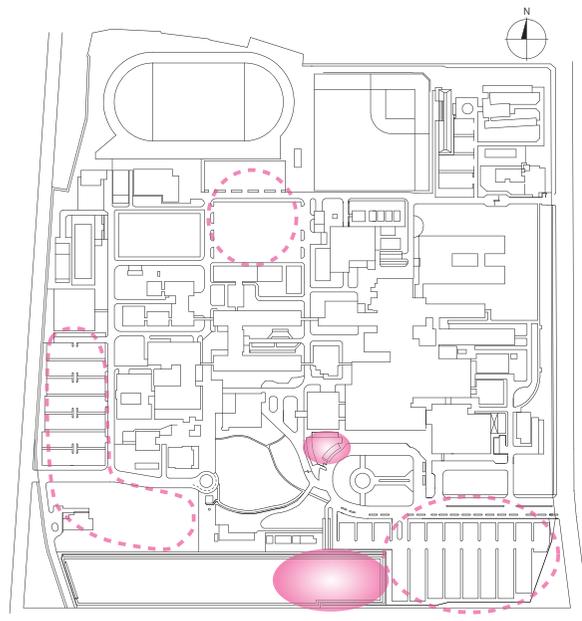
公共交通機関の利用を促進し、入構車両の制限を図る。

駐車場の位置・規模は当面の間は現状維持とするが、病院再整備

による患者増により駐車台数の不足が予想されるため、立体化も検討する。

駐輪場は、建物整備にあわせ

建物周辺に確保して利便性の向上を図ると共に景観へ配慮した整備を行う。



- ⊙ 既存駐車場
- 計画駐車場



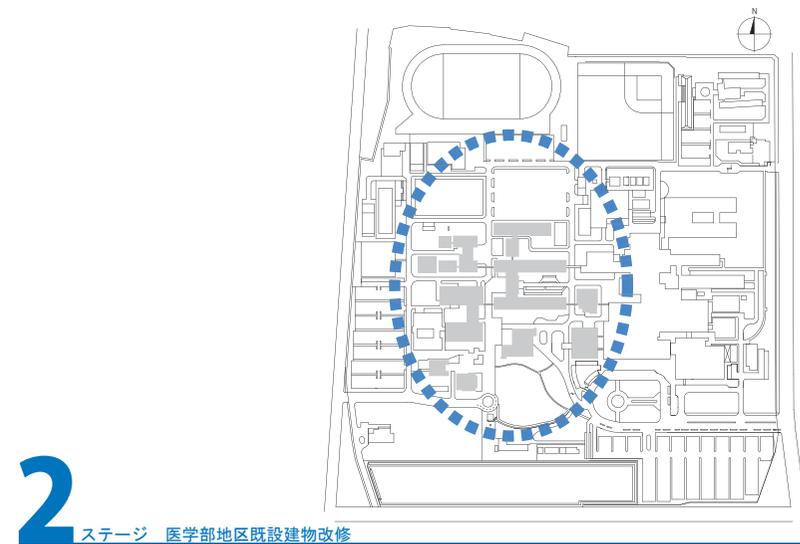
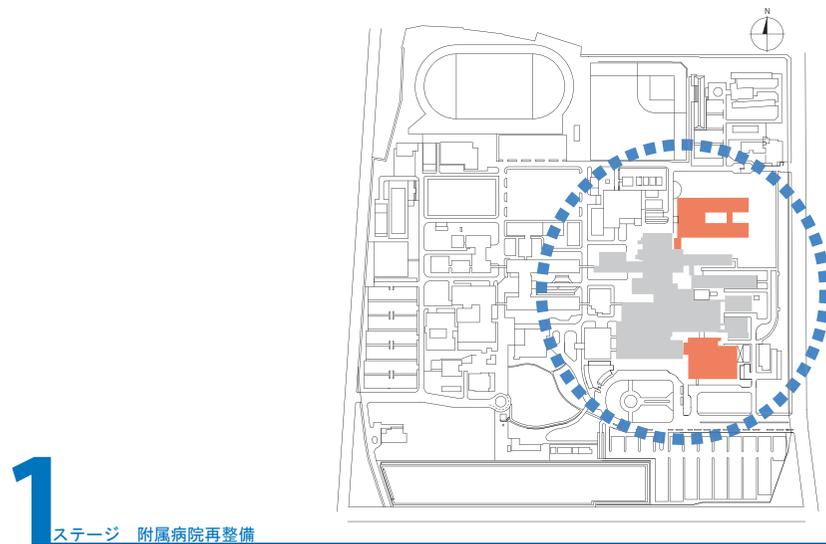
A: 立体駐車場 (九州大学)
 B: 南西側駐車場
 C: 駐輪場

27. 施設整備計画

施設は経過年数25年以上の老朽建物が大半である。これらは同時期に建設されたため、集中して大規模改修の時期を迎えているが、国の財政措置の状況を踏まえ、緊急性、耐震性や老朽度を勘案し順

次機能改善再生を図る必要がある。附属病院施設は、近未来・高度医療への対応、地域医療への貢献を目指した増築整備、老朽化した既存施設の再生を行う。
また、患者およびスタッフのア

メニティ向上等を目指した整備を行う。1ステージで附属病院再整備を、2ステージで医学部の施設を改修整備していく。

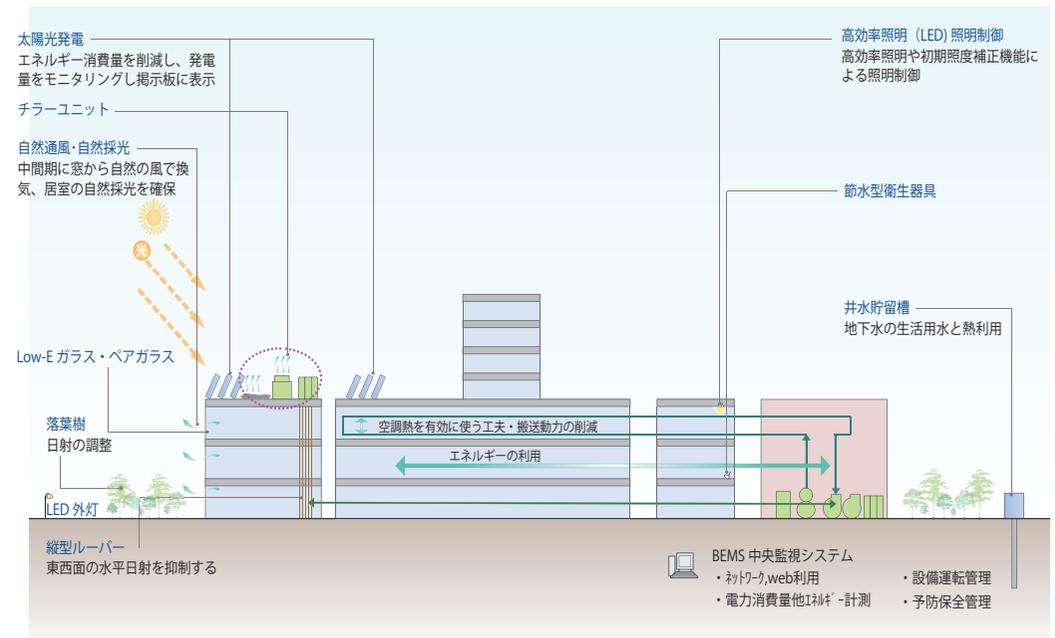


28. エコキャンパス計画

太陽光発電設備等の自然エネルギーの活用や、LED照明の採用等により、地球環境に配慮し自然環境への負荷の軽減を推進し、人と自然

と環境の共生を図る。全学をあげて取り組んでいるエコアクション21をより活性化するための環境に配慮したキャンパスづく

りと、環境マネジメントの一層の推進を図る。



29. インフラ計画

現在、鍋島キャンパスは建築後25年以上の建物が約86%あり、建物のみならず電気・水道・ガス

等のライフライン老朽化が著しい。今後は教育・研究の円滑な遂行を支えるための基盤として、安全

性や効率性、地球環境に配慮したインフラ計画を行っていく。

1. 周辺環境、地球環境に配慮したインフラ計画

地球温暖化防止のためCO₂等の温室効果ガス排出量の抑制を図った環境に優しい計画とする。

3. 保守管理の省力化を配慮した設備計画

増大する空調用需要電力に対し、ランニングコストの低減を図る空調システムの導入を計画する。

2. 設備機能の信頼性の向上を配慮したインフラ計画

設備機能の支障は教育研究に重大な影響を及ぼすため、設備機能の低下あるいは停止等が発生しない信頼性、安全性の高いシステムを構築する。

4. 省エネルギー計画

高効率型機器の採用、熱負荷の低減、エネルギーの有効利用、搬送動力の低減、自然エネルギーの利用等を考慮した計画とする。

電力設備	現 状	計 画
引込み	特別高圧架空引込み	特別高圧埋設管路引込み
回線数	常用、予備22kVで2系統電力引込み	変更なし
変電設備容量	5,000kVA×2(特高受電室)	変圧器の高効率型への更新
デマンド電力	2,850kW	3,500kW程度に抑制・維持
契約種別	特定規模電気事業者と契約	変更なし
構内配線敷設	管路埋設	変更なし
停電対策	予備線と自家発電機による非常用発電機の自動切り替えによる対応	変更なし
省エネルギー	一般的な変圧器および照明器具	高効率型変圧器及び省エネ照明機器の採用、センサスイッチ採用による照明設備の自動点滅化

情報通信設備	現 状	計 画
電話設備	電話交換機は平成9年度にデジタル電子交換機に更新	音声、データ、画像総合インフラに対応できる電話交換設備へ更新 IP化への対応、キャンパス間の一元化
情報設備	平成 6年度に全学学内 LAN (FDDI) 構築 平成13年度にギガビットネットワーク構築 平成16年度に附属病院電子カルテLAN構築	改修に伴う情報通信網(光ケーブル)の充実を図る
防災電気設備	病院は P 型受信機 昭和 55 年度設置 学部は P 型受信機 昭和53～62年度設置 各建物の感知器等は P 型設備	P型受信機(旧)からR型受信機への順次移行に伴い各建物の中継器を新設し、受信機(新)に対応
集中検針設備		各建物ごとの光熱量を計測可能にし、エネルギー管理及び省エネルギーに貢献する ビル管理システム「BEMS」の導入による個室のエネルギー管理

空調設備	現 状	計 画
空調方式	病院:主として中央方式(中央機械室のボイラ、冷温水発生機) 医学部:個別空調方式(ルームエアコン等)	病院:再整備に伴い、省エネ快適性を考慮した方式、ゾーニングを検討 医学部:方式は変更なし、高効率機器へ更新

熱源設備	現 状	計 画
ボイラ	蒸気ボイラ 3 基による中央方式 (蒸発量 5 トン× 3 設置年平成12年度)	変更なし
冷凍機	ガス焚冷温水発生機 3 基による中央方式 (300、400、600U S R T 各 1 基 設置年平成11年度)	変更なし 冷温水ポンプのインバーター化を検討

都市ガス設備	現 状	計 画
使用先	学内全域 (実験・空調・生活用 2,033,000m ³ /年程度)	変更なし
配管	基幹配管の更新はほぼ完了	一部の老朽管は再整備に合わせて取替

給水設備	現 状	計 画
水源	市水(166,000m ³ /年程度)及び井水	変更なし
給水方式	受水槽と高置水槽の組合せ(重力方式)	変更なし
配管	構内引込管の老朽化(昭和 54 年度布設)	構内基幹配管の更新 病院再整備に伴いFRP製高置水槽からステンレス製へ更新

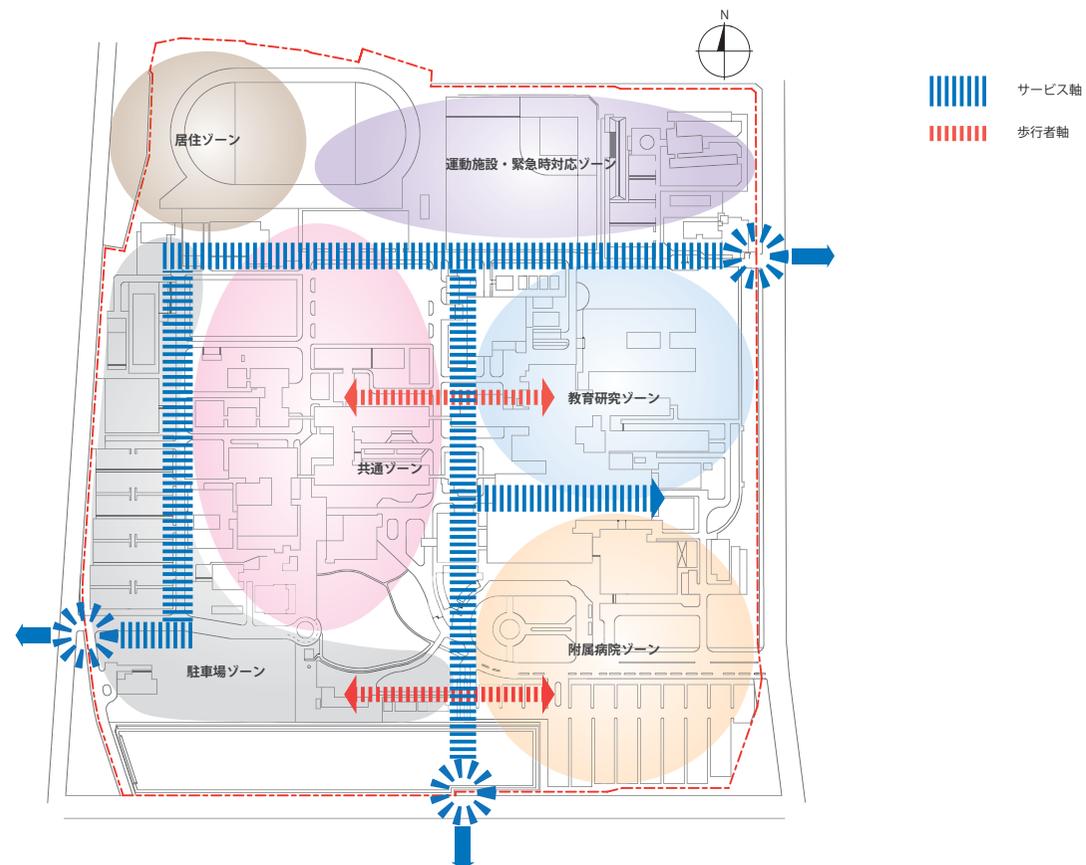
排水設備	現 状	計 画
一般排水	公共下水道へ放流	Web上で集中検針を行う 方式は変更なし
汚水排水		
雨水排水	公共下水路へ放流	
実験排水	洗浄排水処理施設を経由し、公共下水道へ放流	

30. フレームワークプラン

フレームワークプランは、佐賀大学のアカデミックプランを実現するため、キャンパスの将来像を土地利用計画と動線計画により、およそ 50 年先のキャンパスの骨格をイメージするものである。施設整備計画に示した整備を終

え、概ね 30 年後にほとんどの建物は寿命をむかえ、建て替えることとなるため、病院ゾーンを南側に、教育研究ゾーンを東側に展開する。

このフレームワークプランは、次世代に託すメッセージとする。



あとがき

時間をかけてつくりあげた良質なキャンパスの空間は、国民の貴重な財産である。

そして良好なキャンパスの景観や環境を次世代へ継承することは、なによりも大事である。そのためには、確かなキャンパスマスタープランの存在と、その実現に向けた継続的努力の必要性がある。

佐賀大学キャンパスマスタープラン 2010 は、策定の趣旨を踏まえつつ柔軟に運用され、時間の経過の中で状況に応じて見直しながら、発展・成長していくことを期待する。

施設マネジメント委員会

五十嵐 勉	川上 敏彦	○中島 晃	村瀬 隆彦
稲岡 司	後藤 昌昭	野瀬 昭博	山形 武裕
上野 景三	佐藤 武	濱崎 雄平	山崎 雅彦
遠藤 隆	鈴木 英	林田 行雄	
角緑 進	徳永 蔵	松岡 力	
鎌田 雅夫	富田 義典	宮崎 耕治	

本庄地区 施設整備計画WG

荒木 博申	松岡 力
五十嵐 勉	村山 詩帆
○石橋 孝治	
稲岡 司	
中島 謙一	
平地 一郎	

鍋島地区 施設整備計画WG

市場 正良
北嶋 修司
小泉 俊三
○徳永 蔵
増子 貞彦
松岡 力

(五十音順)
委員長、WG長：○